

# 市場広がる広島軟水の酒

## (盛川酒造 株式会社)

### 会社概要(平成24年10月現在)

- 所在地: 広島県呉市安浦町原畑44
- 代表者: 代表取締役 盛川 知則
- 資本金: 1,500万円
- 売上高: 非公表
- 従業員数: 15人
- URL: <http://morikawa-shuzo.com>

### ①事業概要

#### <酒類製造・販売>

明治20年の創業以来125年、広島杜氏伝統の軟水醸造の技を守りながら酒造りを続けている盛川酒造。

仕込み水はこの野呂川系の地下水を使用、軟水地帯の広島県でも一、二を争う超軟水で、水の専門家も「軟水の名水」と太鼓判を押す。

創業から7代目にあたる当主まで“汲むほどに味も香りも深き酒”を目指し、食事と共に楽しめる日本酒造りに専心してきた。

盛川酒造の代表銘柄は「白鴻」で、特徴は軟水の仕込み水を生かしたやさしい口あたりにある。「白鴻」が買える店、飲める店は同社のHPでチェック可能、また通販サイトも開設されている。

### ②海外展開概要

#### <ブラジル、東南アジア等への輸出>

同社は、平成17年にロサンゼルスで開催された「JAPAN EXPO」に参加し、現地における日本酒のニーズを知り、海外展開への取り組みを開始。

広島県内の支援機関が実施する商談会やミッションに参加し、成果を上げてきた。

平成22年にはブラジルのレストラン向けに製品に工夫を加え、特製ブルーボトルの「白鴻」およびアニメのラベルを貼った「萌酒」を現地有名レストラン向けのオリジナル商品として輸出することに成功した。

また、同年にシンガポールのレストラン向けにも白鴻 特別純米酒、お店の名前入りオリジナルボトルなどの販売が実現した。

### ③取組の重点(活用した支援策を含む)

盛川酒造は、平成21年台湾への日本酒輸出について問い合わせを行ったことから、ジェットロ広島とのコンタクトを開始。同社の輸出成功の秘訣は盛川社長自らの熱心な海外市場開拓にある。

平成22年2月ジェットロが主催する「サンパウロ農林水産物・食品ミッション」に参加して現地で商談会を行ったが、ミッション終了後も同地に滞在し現地輸入業者と共に飲食店、小売店などを回りPRと情報収集を行った。

また、平成22年8月岡山で開催された「ジェットロ農産物・食品大商談会」に出展、来日したシンガポールの有力バイヤーとの商談を行った。このバイヤーとは前年にも交渉があったが成約に至らなかったものの、同社は来日を機にこのバイヤーを酒蔵に招きじっくりと商談を行ったことが成約につながった。その後も社長自ら飲食店スタッフとの日本酒勉強会や料理と酒のマッチングイベントを開催するなど、フォローアップにも余念がない。

### ④今後の事業展開について

「国内商談会では、海外バイヤーに自社まで来てもらえる」「海外商談会では効率よく商談ができ、現地の空気がよく分かる」と考える盛川酒造は、ジェットロ広島をはじめ県内支援機関が主催するイベントには、ほぼもれなく参加している。

今後も既存のブラジル、シンガポール等の海外マーケットのフォローを定期的に行いながら、オーストラリア、マレーシアなど新しい市場を含め同社ブランドの多方面での拡がりを目指す。

